

代表的な水循環に資する取組例（I）

水源域における森林整備・保全

『水量水質カテゴリー』

A社（飲料類製造・販売等）の取組

製造工場の水源域において、27自治体を含む計61団体と連携し、8,224haの森林等で涵養活動を実施するなど、地域の自然条件や土地利用特性に応じた水源涵養活動を推進

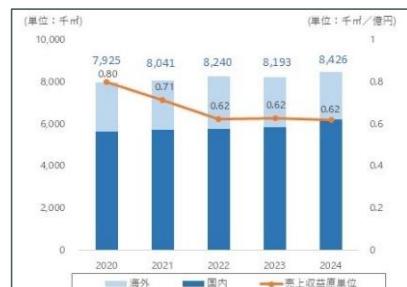


事業活動における水使用量の削減

『水量水質カテゴリー』

D社（電気通信機器の製造・販売等）の取組

水関連施設の水使用効率の高いものへの入替や、生産工程における水の回収・再利用など、各製造拠点の実情にあわせた水使用効率改善のための目標設定及び取組を実施



地下水への還元

『水量水質カテゴリー』

B社（フィルム製造・販売等）の取組

熊本県にある自社工場が位置している地域にて、平成22年度から、地元農家と協力し水田を利用した地下水涵養の取組を実施



法定の排水基準より厳格な社内基準の設定・遵守

『水量水質カテゴリー』

C社（医薬品の製造・販売等）の取組

事業所排水の環境生物への影響を確認するため、平成25年より排水に含まれる化学物質の影響を総合的に把握・評価するためのWET（Whole Effluent Toxicity）試験を実施

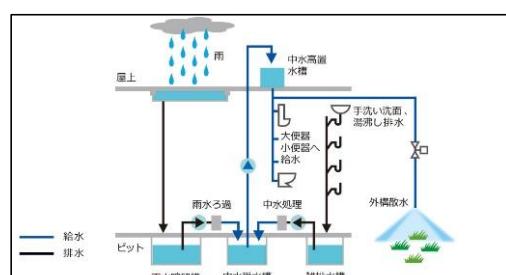


自社以外が実施する水源涵養に係る支援

『人材資金カテゴリー』

E社（不動産業等）の取組

敷地全体で雨水を集水し、雨水貯留槽に貯留後、外構の植栽散水への利用したり、比較的汚れの少ない排水を、中水として事務所用のトイレ洗浄水に有効利用



F社（飲料類製造・販売等）の取組

安曇野市にある自社工場周辺の地下水の起源を調査し、水源域の一つを特定。自治体の制度の活用・協定を締結し、森林保全活動を毎年継続して実施



◆ 社外への水循環に係る教育・啓発

『人材資金カテゴリー』

G社（土木、建築等）の取組

未来の担い手である学生に関心を持ってもらうため、出前授業やイベントを積極的に実施しており、今年度は都内を修学旅行中の中学生に水インフラの重要性を伝える授業を実施



◆ 河川等における生物多様性保全への支援

『人材資金カテゴリー』

J社（土木、建築等）の取組事例

横浜市栄区上郷町の約0.32km²の自社事業管理地において、地元市民団体と連携し、樹林の整備、人工湿地、湿地性のオギ原の創出などの里山環境の整備を実施



◆ 社外への水循環に係る教育・啓発

『人材資金カテゴリー』

H社（水処理関連の情報通信業等）の取組

水処理プラントの建設から運用までのプロセスを模式化し、遊びながら水処理インフラの全体像がわかるカードゲームを作成。自社内をはじめ他社の新入社員研修等で活用され、水処理プラントの認知・理解の普及に貢献



◆ 自治体・活動団体への寄付・助成

『人材資金カテゴリー』

K社（住宅設備機器の製造・販売等）の取組

2005年に基金を設立し、これまでに水と暮らしにかかわる環境活動に取り組む、のべ332団体に約5億円を助成しており、社員が助成先団体の活動に参加する「協働」も実施



◆ 河川清掃等への協力

『人材資金カテゴリー』

I社（土木、建築等）の取組

平成22年9月に広島県アダプト制度のラブリバー認定団体として認定を受け、2か月に1回程度の頻度で活動を継続しており、通算清掃回数は110回を超えて実施



◆ 流域の上流と下流の交流を深める

イベントの開催・支援

『人材資金カテゴリー』

L社（上下水道施設の維持管理業等）の取組

毎年継続的に「流域下水道まつり」を地域住民や関係機関の協力を得て開催しており、年間約2,000名の来場者を迎える規模に成長

